

補充作業の効率化と 期限切れ物品をゼロにするための工夫

船 渡 麻 未 小 林 里 美 今 井 潤 子

要旨：手術部において、手術の安全性と効率性を高める目的で、種々の物品を適正に管理することは非常に重要なことだとされている。しかし、手術室では多種類の手術材料が用いられるため、物品の管理は極めて難しく、使用量以上の物品定数により期限が切れたり、収納が困難となったりと様々な問題が起きているのが現状である。当院でも手術件数の増加により物品数が増え、管理が行き届かず大量の期限切れ物品が生じた。そこで、今回、物品の管理・補充方法の見直しと安心在庫数の決定を行い、補充作業の負担軽減と期限切れ物品の損失削減に努め、成果を得たためここに報告する。

【はじめに】

当手術室は、手術件数の増加に伴い、使用する物品数が増加している。それに伴い、物品の管理が行き届かず、大量の期限切れ物品が生じた。また物品の補充作業を看護師が担当制で行っていたため、業務上の負担となっていた。また補充作業の際、物品の定数が決まっておらず、使用量以上に補充されることが多くみられた。そのため、無駄な在庫が増加してしまい、多くの期限切れ物品が生じ、昨年度の期限切れ物品の合計金額は34万円にのぼった（図1）。



図1

そのため、今回、期限切れ物品を0にすることを目標とし、SPDの適正管理と物品補充の効率化に取り組むことにした。

【方 法】

期 間：平成28年4月～平成29年3月

内 容

- 1) 補充方法の見直し
 - ・補充作業を週一回の当番制から（図2，3），各ルーム担当者が毎日補充する方法に変更
 - ・ルーム毎の補充を可能にするため、ルーム専用のケースを設置（図4）
 - ・SPDカードにルーム名を追加記載し、業者がルーム専用ケースに直接補充（図5）
- 2) 安心在庫数の決定
 - ・物品の納入、支出量をデータ化し、安心在庫数を決定
 - ・物品の単包化（図6，7）
- 3) 手術室スタッフにアンケート調査

【結 果】

補充方法の変更に伴い、従来は半日かかっていた作業が改善後はかごを持っていくだけで補充が可能となったため、補充時間が約30分と、約2時間半もの時間短縮につながった。



図2



図3



図4



図5



図6



図7

改善後のスタッフのアンケート調査からは「物品カート内が整理され物が探しやすくなった」「通常業務の合間に補充作業ができるようになった」など、全てのスタッフから改善前と比較し、良くなったとの意見を得ることができた。

定数の見直しについては、使用回転数をデータ化し定数を決めたことで、ルーム内の滅菌手袋が以前400個あったのに対し、60個まで減らすことが出来た。他の物品も同様に安心在庫数を決め、運用をすることができた。

無駄な在庫数が減ったことにより、期限切れ物品の合計金額が変更前34万円に対し、変更後10万円と約20万円の削減につながった。

【考 察】

手術室の物品は手術件数や術式の変化によって大きく左右される。手術件数が増えればその分使用数が増加し物品定数も増加する。そのため、定期的な定数管理がとても重要となるが、箱単位の全体管理では物品数が大量であり、管理が行き届かなかった。また、スタッフの意識の差によってルーム内の過剰な補充がみられ、期限切れを生じてしまうことも多くみられた。そこで、各ルームの使用回転数に応じて、少数で物品を単包化し、安心在庫数を決めた。そうすることで、少ない在庫で物品の回転が可能となり、死蔵や過剰在庫の解消につながることができた。

また、改善前は週に一度2人1組の看護師で、物品カート2台を押しながら補充をしていたため、約半日ほどの時間を要していた。また、手術が開始されている部屋には衛生上入ることができないため、時間も制約され、その日うちに補充ができないことも多く、きわめて非効率であった。そのため、手軽に補充ができるよう各ルーム専用のかごを設けた。補充の際はそのかごを持って行くだけで補充ができるようになり、補充作業の負担が分散され、以前は半日かかっていた作業が改善後は30分と大幅な時間短縮につながることができた。また、当日の担当者が短時間で補充ができるようになり、業務負担が軽減され、スタッフの満足感も得ることができ

た。

ルーム管理にするにあたり、SPDカードの記載方法も変更した。以前は手術室と書かれているだけであったが、手術室の横にルーム名を追加記載したことで、単包化された物品が専用かごに直接補充されるようになった。その結果、SPDカードで正確な管理が可能となり、補充漏れが減り、無駄な在庫数の削減と期限切れ物品の削減にもつなげることが出来たと考える。

今回の活動で、SPDの適正管理と補充方法の効率化を図ることができ、それに伴い無駄な在庫数とコストの削減にもつなげることができた。しかし、物品の種類によって、単包化が不可の物や医師の指示で使用頻度が低い物品に対しても在庫を置いている現状があるため、まだ期限切れ物品が存在し、目標達成には至らなかった。そのため、それらの補充方法や管理方法の見直しを行っていくことが今後の課題となる。

【おわりに】

手術室の物品管理において、手術件数の増減や手術方法の変更に対応しながら、定期的な安心在庫数の見直しと、定着化を図っていきたい。

参考文献

高原昭男：ミス・事故をなくす医療現場の5S—ものの5Sから業務の5Sまで—, JIPMソリューション, 東京, 2011

